

連携協力協定を活かしたインターンシップ・プログラムの事例 ーホテルヴィスキオ尼崎での実践報告ー

A Case Study of an Internship Program utilizing a Regional Cooperation Agreement

- A Practice Report at the Hotel Vischio Amagasaki -

北村 正仁*

Masahito KITAMURA

【抄録】

関西国際大学では、2022年2月にホテルヴィスキオ尼崎との間で「連携協力協定」を締結した。この連携協力協定に基づき、尼崎キャンパス経営学部経営学科の2年生を対象として、2022年8月にインターンシップ・プログラムを初めて実施した。これは、学外での経験学習を重視する関西国際大学と、地域社会への貢献を目指すホテルヴィスキオ尼崎が連携し、地域活性化のために、就職や採用の目的ではなく、学生のキャリア教育の一環として実現したものである。新型コロナウイルス拡大などの影響も受けながらも実施した、初のインターンシップ・プログラムの概要を報告する。

Abstract

In February 2022, the Kansai University of International Studies concluded a "Regional Cooperation Agreement" with the Hotel Vischio Amagasaki. Based on this cooperative agreement, an internship program was implemented for the first time in August 2022 for second-year undergraduate students of the Department of Business Administration, Faculty of Business Administration, Amagasaki Campus. This program was realized through the collaboration between Kansai University of International Studies, which emphasizes experiential learning outside the university, and Hotel Vischio Amagasaki, which aims to contribute to the local community. It's a part of the student career education, not for employment or hiring, but for revitalizing the local community. This report provides an overview of the first internship program, which was implemented despite the impact of the spread of infectious diseases of COVID-19 and other factors.

キーワード

連携協力協定 インターンシップ 新型コロナウイルス 地域貢献 経験学習

Keywords

Regional Cooperation Agreement, Internship Program, COVID-19, Local Contribution, Experiential Learning

* 関西国際大学経営学部 地域総合研究所学内研究員

I はじめに

関西国際大学（以下、本学）は、2022年2月、本学尼崎キャンパス（兵庫県尼崎市潮江）の近隣でJR尼崎駅前にある「ホテルヴィスキオ尼崎」（法人名称：尼崎ホテル開発株式会社）（以下、ホテルヴィスキオ）との間で、「連携協力協定」（以下、協力協定）を締結し、2月8日に「連携協力協定締結式」を開催した。この締結の初年度である2022年8月、協力協定に基づく活動の一環として、本学2年生を対象とした、インターンシップ・プログラムをホテルヴィスキオにて実施した。2020年から世界的な拡大が続く新型コロナウイルス感染症の第7波の時期とも重なり、多難な状況下での取り組みとなったものの、1グループ4名構成の2つのグループ合計8名の学生がホテルヴィスキオでのインターンシップ・プログラムに参加し、貴重な体験を得ることが出来た。

本稿は、この協力協定に基づく地域観光産業拠点であるホテルとの連携による初のインターンシップ・プログラムの実施内容と、それにより確認された様々な課題や成果をまとめたものである。

II 地域連携協定の概要

2022年2月1日、本学とホテルヴィスキオの連名により、協力協定の締結と2月8日に開催した締結式に関するニュースリリース¹が発行されている。それによれば、「地域社会の” Well-being”（幸福）を重視する未来社会を目指して、近接するお互いの施設の特性を活かし、主体的・能動的に包括的な連携協力を行い「地域活性化」に向けた取り組みを進めてまいります。」とし、さらに、「連携協力協定により、インターンシップを軸とした相互の人材育成、地域における観光コンテンツの開発、学生の就職促進、防災・減災、健康増進、広報など幅広い分野において、双方の人的・知的資源の交流を促進し、相互に有意義と認められる諸事業を行うことを通じて、地域の活性化と両者の継続的な発展に資することを目的としております。」とその締結の狙いや今後の可能性を提示している。

このニュースリリースを見ても、冒頭に「インターンシップを軸とした」と記述されているとおり、当初から「インターンシップ・プログラム」が両者の中核的な連携事業として位置づけられていたと言える。



図1 ホテルヴィスキオ尼崎（出所：ホテルヴィスキオ ホームページより）²

Ⅲ インターンシップ・プログラムの位置づけ

1. 大学の教育理念・方針

インターンシップ・プログラムの具体的な内容に触れる前に、本学の教員理念や方針について、特にインターンシップに関係すると思われる部分を大学ホームページ³から確認してみたい。

1.1. 教育理念

本学の教育理念⁴は、「関西国際大学は、世界的視野に立ち、人間愛あふれ、創造性豊かな行動力のある人間の育成をめざす、知性あふれる学問の場である。」として、次の3つを掲げている。

- (1) 自律できる人間であろう・・・自己に厳しく、たえず努力し続ける人間になろう
- (2) 社会に貢献できる人間であろう・・・自ら創造し、積極的に行動する人間になろう
- (3) 心豊かな世界市民であろう・・・世界の人々と共に生き、互いを高めうる人間になろう

このように、大学の教育理念のレベルから自律、社会貢献、世界市民といった考え方が強調され、単なる学術的な知識の習得にとどまらず、社会との関係性や貢献を意識したものとなっている。さらに、この教育理念を達成するために⁵、「知識や理論を学ぶことと、経験と体験を通して学ぶことを統合して、自らの学んだことを実際に活用できる力を育成することを重視しています。」とされ、

- (1) 自律できる人間であろう
- (2) 社会に貢献できる人間であろう
- (3) 心豊かな世界市民であろう

との3点が示されている。この2項目の解説では、「大学では、学生に知識や技能をしっかりと身につけてもらうために、サービ斯拉ーニングやインターンシップなどの教室外活動を充実しています。」としている。

1.2. ポリシー

本学の「卒業認定に関する方針」(ディプロマ・ポリシー)⁶では、「グローバルな視野に立った教養と専門知識・技能を習得し、安全な社会やコミュニティづくりに向けて総合的に活躍できる人材を育成すること」を目的としており、その実現のために次の6つの力・資質を習得・涵養としている。

- (1) 自律的で主体的な態度(自律性)
- (2) 社会に能動的に貢献する姿勢(社会貢献性)
- (3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力(多様性理解)
- (4) 問題発見・解決力
- (5) コミュニケーションスキル
- (6) 専門的知識・技能の活用力

このディプロマ・ポリシーを実現するため、「教育課程の編成及び実施に関する方針」(カリキュ

ラム・ポリシー)が策定され、教育内容・教育方法・教育評価について具体的な記述が行われている。この教育方法の中では、「社会の課題を自己のものとして捉え、考え、発信するための国外や地域における学外経験学習プログラム、グローバルスタディ、サービスマーケティング、インターンシップを原則として1種類以上履修することを求め、学位プログラムごとに詳細を定めます。」としている。

このように、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーにおいて、社会に能動的に貢献する社会貢献性や自律性を強調し、その具体的な教育方法として学外での経験学習を重視し、そのプログラムの1つとして「インターンシップ・プログラム」が重要視されていることが確認できる。

2. インターンシップ・プログラムの扱い

前項にて、本学の教育理念やポリシーにおいて学外経験学習が重視され、その一環としてインターンシップ・プログラムが展開されていることを確認した。次に、インターンシップの社会的認識や扱いについて確認すると共に、当学における位置づけを確認してみたい。

2.1. 社会的な定義

文部科学省・厚生労働省・経済産業省の三省が連名で発行している「インターンシップを始めとする学生のキャリア形成支援に係る取組の推進に当たっての基本的考え方」という文書⁷がある。制定は1997年9月で、2023年6月に最新の改正が行われている。この文書では、2023年4月に、一般社団法人日本経済団体連合会(経団連)と大学関係団体等の代表者により構成される「採用と大学教育の未来に関する協議会」での検討結果を踏まえて、「学生のキャリア形成支援に係る産学協働の取組み」が4つの類型に整理されている。

タイプ1：オープン・カンパニー（オープン・キャンパスの企業版）

主に企業や就職情報会社が主催するイベント・説明会で、学生の参加期間は超短期(単日)で就業体験はないもの。

タイプ2：キャリア教育

主に企業がCSR(企業の社会的責任)として実施するプログラムや、大学が主導する授業などで、実施時期は学士・修士・博士課程の全期間であり、就業体験は任意のもの。

タイプ3：汎用的能力・専門活用型インターンシップ

主に企業単独で実施する、適性・汎用的能力ないしは専門性を重視したプログラムで、参加期間は、汎用的能力活用型は短期(5日間以上)、専門活用型は長期(2週間以上)。就業体験は必須のもの。

タイプ4：高度専門型インターンシップ

大学と企業が連携して実施する、高度な専門性を重視した修士課程学生向けプログラムで、就業体験が必須のもの。(文部科学省・経団連が共同で試行中)

これら4種の類型のうち、企業への就職を目的とした「インターンシップ」は、タイプ3とタイ

プ4の2つのタイプであると明記され、「学生がその仕事に就く能力が自らに備わっているかどうかを見極めることを目的に、自らの専攻を含む関心分野や将来のキャリアに関連した就業体験を行う活動」と定義されている。つまり、インターンシップとは、企業への就職を前提とした能力確認や就業体験の活動を指すものと言える。

2.2. 本学のインターンシップ・プログラム

これに対して、本学におけるインターンシップの活動は大きく2種に分類できる。1つは、前項で文科省等が定義している、就職を前提としたインターンシップであり、主に3年生が就職希望または候補企業へ応募する、いわゆる「自由応募型インターンシップ」のプログラムである。他方、本稿で対象とするインターンシップ・プログラムは、2年生を対象としたキャリア教育の一環として実施しているものである。つまり、将来の就職とは関係なく、大学側は学生の教育プログラムとして、企業側は地域貢献や社会貢献の一環として学生を受け入れるものである。その意味においては、前項で示した三省の定義によるインターンシップ（タイプ3・タイプ4）ではなく、「キャリア教育」と分類されたタイプ2の形態と言える。但し、三省の定義は、そのプログラムの実施時期や募集要項の開示、収集した学生情報の扱いなどを明確化するための類型と定義であり、タイプ1やタイプ2を「インターンシップ」と呼称すること自体を制限・否定しているものではない。

このキャリア教育に該当する2年生を対象とするインターンシップ・プログラムは、Ⅲ 1.2. 項で示したとおり、本学が積極的に展開する「学外経験学習プログラム」の1つであり、社会の課題を自己のものとして捉え、考え、発信することを目指している。この科目のシラバス⁸によると、授業の目的として「学内での学習成果としての専門知識やスキルについて、インターンシップを通して特定の業種・業界のビジネスの現場で実践し、その有効性を確認する。また、現実社会における様々な経済現象を、今後の大学での学習にフィードバックする。」とし、その学習目標として次の4点を掲げている。

- ① 企業の組織や業務を理解できる。
- ② 組織内の人間関係を円滑に構築できる。
- ③ 与えられた業務に責任を持って遂行できる。
- ④ 実習を通じて自己や演習中の課題を発見し、対応をまとめて後の学習に生かすことができる。

つまり、このインターンシップ・プログラムは、本学2年生のカリキュラムの中では学外経験学習プログラムの1つとして重要な位置づけであると同時に、その実現・実行のためには、その意図や趣旨を十分に理解してもらえらる協力的な外部企業や団体の存在が必要不可欠となる。それこそが、Ⅱ章で示した、本学とホテルヴィスキオとの間で締結された協力協定の存在と意義と言えよう。

Ⅳ インターンシップ・プログラムの内容

1. 実施概要

2022年夏に実施したホテルヴィスキオでのインターンシップは、次のような概要であった。

(1) 対象学生

今回のプログラムに参加した本学2年生の構成は次のとおりである。

- ① 人数：8名（男性6名、女性2名）
- ② 国籍：日本人：5名（男性4名・女性1名）、ベトナム人留学生：3名（男性2名・女性1名）

(2) 授業内容

- ① 授業内容は、「事前学習」、「実習」、「事後学習」の3部構成
- ② 事前学習は、インターンシップ先企業の概要や事業環境・経営課題等をグループで討議・発表
- ③ 実習は、実際のインターンシップ先での活動で、毎日の日報を作成し、最終日に報告会を実施
- ④ 事後学習は、実習後にインターンシップでの学びをポスター形式でまとめ、後日学内で発表

(3) 実施日程

- ① 事前学習：2022年8月1日
- ② 実習：2グループで実施：
第1グループ（4名）：8月19, 20, 21, 23, 24日（5日間）
第2グループ（4名）：8月26, 27, 28, 30, 31日（5日間）
- ③ 事後学習：2022年9月16日
- ④ ポスター発表：2022年11月13日（神戸山手キャンパスの文化祭にて他科目と合同で実施）

2. 実施内容

2.1. 事前調整

今回の本学とホテルヴィスキオとの連携によるインターンシップ・プログラムは、既述のとおり初めての試みであり、双方とも手探りでの実施であった。そのため、実際のプログラム実施から約2ヶ月前の2022年6月20日、ホテルヴィスキオにて事前の調整打ち合わせを実施した。

事前打ち合わせでは、双方の手続き面での確認と共に、ホテルヴィスキオ側よりインターンシップ・プログラムをホテル内2階にあるカフェ&レストラン「ウエストリバー」（図2）で行う旨が提示された。当方からは、実際のプログラムの実施日と内容及び設定課題の検討、学生への注意事項等の提供などを要請した。その後、電子メールによりプログラム実施日やグループ構成（1グルー



図2 カフェ&レストラン「ウエストリバー」（出所：ホテルヴィスキオ ホームページ）⁹

プ4名構成)、合わせて「身だしなみ基準」や「衛星基準」などの重要な情報が提供された。その際に提示された学生への課題は、「現状の顧客をリピートさせる案と新規顧客を呼び込む案を考える。客層、価格帯、時間帯、地域性を考慮し、SDGsの観点も盛り込む。」という具体的かつ充実した内容であった。

2.2. 事前学習

事前学習では、8名の学生を4名ごとの2グループに分け、第1グループと第2グループとした。各グループで自己紹介等のアイスブレイク後、まずはホテルヴィスキオの基本情報をホームページから取得、次にホテル業界やホテル内レストランの業界動向や課題を調査・想定させてグループ内で議論を行った。その後、ホテルヴィスキオから提示された課題である、新規顧客の獲得と既存顧客のリピートに関する施策を検討し、パワーポイントにてまとめ、他のインターンシップ・グループと共にグループ発表を実施した。単なる就業体験としてのインターンシップ・プログラムではなく、学外経験学習としての教育プログラムであるため、経営学部としての基本的な視点や想定を事前に持たせることと、課題解決の仮説を持って実際の業務に当たれるようにした。図3は、その時の発表資料である。



図3 事前学習でのグループ発表資料

2.3. インターンシップの実習

実際のインターンシップは、8月後半に各グループ5日間ずつ実施された。各グループの初日は、担当教員として筆者が学生を引率し、ホテルロビーにてホテル側実習担当者へ引き渡し、2日目以降は各自が出勤する形態とした。ホテルでは制服（ユニフォーム）が支給され、初日の午前中はオリエンテーションにて身だしなみやレストランでの所作・作法などの教育が行われた。その後、ランチタイムでの業務を中心に、ディナータイムの一部業務や朝食・宴会サービスなどの業務があり、終日には全体のまとめと「意見交換会」が設定され、学生がホテル側へ設定課題に対する提案を行う場が提供された。なお、学生に対しては、毎日の業務終了後に「日報」（今日の振り返り）の作成を義務付け、受入れ企業（ホテルヴィスキオ）の実習担当者による簡単なコメントと確認を受けることとした。詳細のプログラム内容は、次の図4のとおりである。

	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
1日目 (金)	9:00~18:00	オリエンテーション		ランチ		休憩		ホテル館内案内	振り返り			
2日目 (土)	10:00~19:00		朝食片付け	ランチ		休憩		ランチ片付け+ディナー準備(2名) 料飲予約(2名)	ディナー	振り返り		
3日目 (日)	10:00~19:00		朝食片付け	ランチ		休憩		料飲予約(2名) ランチ片付け+ディナー準備(2名)	ディナー	振り返り		
4日目 (火)	9:00~18:00	朝食	朝食片付け	ランチ		休憩		ランチ片付け+ディナー準備	振り返り			
5日目 (水)	9:00~18:00	朝食	朝食片付け	宴会サービス(RC)		休憩		まとめ	意見交換会			

図4 プログラム内容

2.4. 事後学習

プログラム実施後、他のインターンシップ・プログラム参加者と共に、9月16日に事後学習を実施した。事後学習では、まず「提出物」や「送付物」の確認を行った。具体的には、「日報」の提出と「お礼状」の送付確認である。

「日報」は、2.2. 項で説明のとおり、学生が毎日の業務終了後に作成し実習担当者の確認を得るものである。「お礼状」は、社会人マナー教育の一環として、インターンシップ終了後1週間以内に自筆でのお礼状を作成し、インターンシップ先へ郵送することを指導しておりその確認である。

続いて、各自に「実習報告書」の作成を指導し、設定期日までの提出を促した。その後、各グループ単位でインターンシップ実施報告のグループワークを実施した。グループワークでは、インターンシップでの学びを相互に話し合い、グループ単位での成果のまとめと各個人の学びをまとめた。具体的には、プログラム概要、出勤状況（遅刻や欠席など）、失敗したこと、成功したこと、企業から提示された課題、その課題に対する解決案、などである。

最後に、事後学習のまとめとして、各グループ単位での発表と参加者全員の個別発表を行った。

2.5. ポスター報告会

大学のカリキュラム上ではこのインターンシップ・プログラムとは別の科目となるが、2年生の教育体系として、次に連携する「プロジェクトマネジメント演習Ⅲ」という科目がある。このプロジェクトマネジメント演習Ⅲの前半では、インターンシップ・プログラムの参加学生には、そのポスターによる報告作成と発表を課題として設定している。2.4. 項で行ったグループワークの内容をベースに、A0サイズの報告用ポスターを作成し、11月13日に開催された大学の文化祭である「諏訪山祭」¹⁰⁾にて、他の学外経験学習などと共にポスター報告を実施した。他学部の学生も含めて、多くの教員や学生に対してポスター報告を行う機会を得ることが出来た。下記に実際に作成されたポスター（図5）とポスター報告会での様子（図6）を示す。

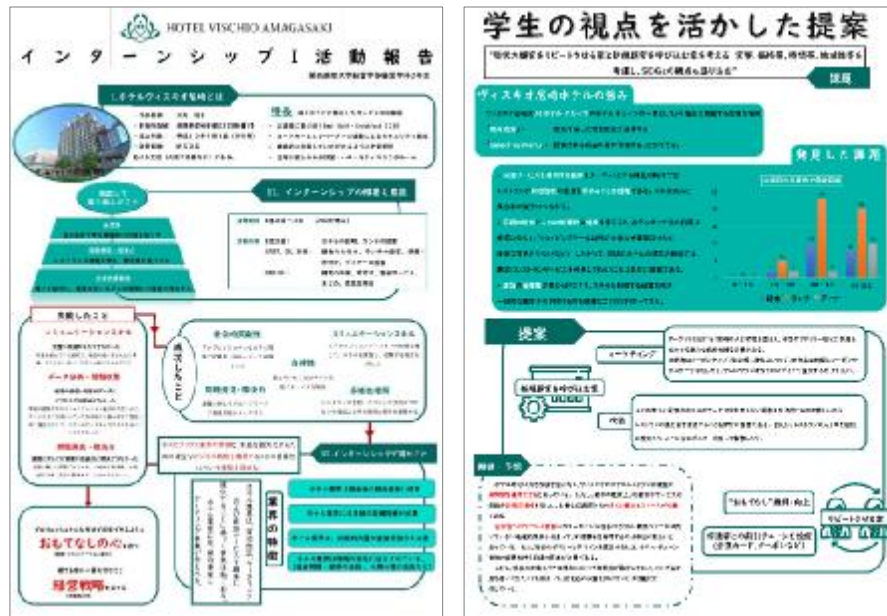


図5 インターンシップの報告用ポスター



図6 ポスター報告会の様子（筆者撮影）

V 実践上の課題と成果

1. 身だしなみとマナー

ホテルヴィスキオのような、駅前にある都市型ホテル（今回はホテル内のレストラン）におけるインターンシップ・プログラムで最も課題となるのが、髪型や服装などの「身だしなみ」と接客時の所作や作法などの「マナー」である。学生の多くは飲食店やコンビニエンス・ストアなどでのアルバイト経験があり、接客などのマナー教育をある程度受けている学生も少なくはないが、ホテルが求めるレベルには各段の差がある。ホテルヴィスキオでは制服の支給があったものの、髪型や化粧、シャツやベルト、靴下や靴など、学生自身による事前の準備や規則にそった対応が求められる。IV-2.1.項のとおり、事前打合せにおいてもこの懸念があり、「身だしなみ」や「マナー」に関する事前の情報提供をホテル側に求めた。実際、ホテルヴィスキオには厳格なルール設定が行われており、「身だしなみ基準」を提示頂いた。ここでは詳細を掲載出来ないが、大分類だけでも、ヘアスタイル、顔、装飾品、ユニフォーム、爪、靴下、靴、においなどの項目が設定され、更に小項目別に男性と女性別に詳細な基準が設定されていた。参加学生には事前にこの基準を渡し、事前準備と

出勤時の注意を促す必要があった。残念ながら、一部の学生は十分な準備や心構えが出来ていない事例も散見され、実践上での大きな課題となった。また、新型コロナウイルスへの対応や実務作業時の所作や作法に関する詳細についても、JR西日本ホテルズ共通の新衛生基準「Clean & Safety」へ新し生活様式で考える、上質な旅の基点になるために〜というマナーブック（ポケット版）があり、こちらにも事前に提供を受け、学生には常に携帯するように指導した。

2. 新型コロナウイルスと健康管理

今回のインターンシップ・プログラムにおいて、最も大きな影響を受けたのが新型コロナウイルスによる学生の欠勤とその対応であった。

2022年8月後半は、新型コロナウイルス感染拡大のいわゆる第7波の真っただ中であった。尼崎は兵庫県に位置するものの経済圏としては大阪経済圏に属する。大阪府感染症情報センターが公開しているデータ¹¹（図7）を見ても、8月後半は第7波のピークにあったことが確認できる。

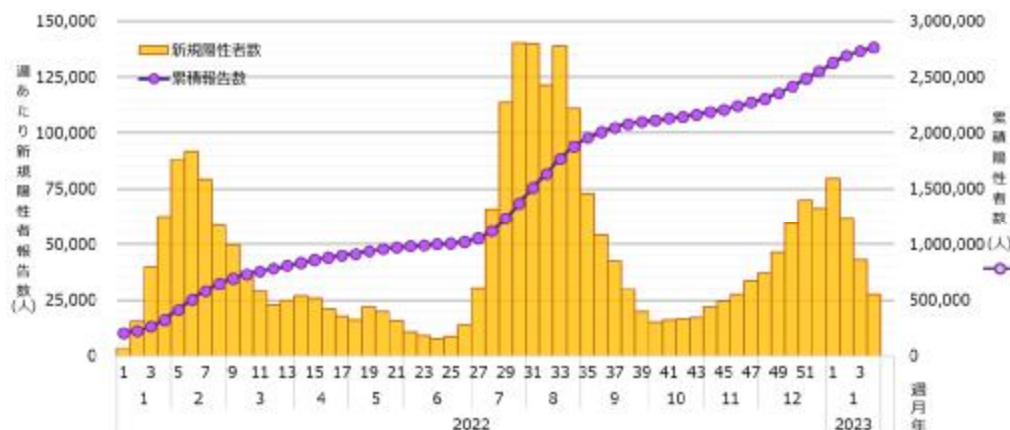


図7 大阪府における新型コロナウイルス感染症陽性者数（出所：大阪府感染症情報センター）

実際に、第1グループ（8月19, 20, 21, 23, 24日）において、8月22日夜に1名が新型コロナの濃厚接触者と判明し、他の1名が23日朝に発熱で2名が欠勤となった。ホテル側の判断により、この2名は最後2日間自宅待機・静養とすることとなった。他の2名のうち1名は前日に上記2名と同じ小部屋に居たため一旦自宅待機として健康観察することとなり、他の1名のみが出勤した。5日目の最終日は、4日目に出勤した学生が体調不良となり、自宅で健康観察していた1名のみが出勤できたため、最終日の報告会はこの1名（ベトナム人男性留学生）のみで実施した。

このように、今回のインターンシップ・プログラムでは、第1グループが新型コロナウイルスに翻弄され、結果としてホテル側へ多大なご迷惑をお掛けする結果になってしまった。また、発熱して最後2日間欠勤した学生も、最終日に体調不良となった学生も、どちらも結果としては新型コロナ感染ではなく、その意味では学生自身の体調管理の不十分さが露呈したと言える。そのため、第2グループメンバーには、十二分な体調管理を行うようにプログラム前の注意喚起を徹底して行い、その結果、第2グループ（8月26, 27, 28, 30, 31日）は、1名の欠勤者を出すことなく計画通りにプログラムを遂行することが出来た。なお、第1グループについては、ホテルヴィスキオ側のご厚意

により後日改めて「報告会」が開催され、欠席したメンバーも最終報告の機会を得ることができた。

3. 学生の成果

本プログラムに参加した8名の学生にとって、このインターンシップはどのような成果をもたらしたのでしょうか。先に示した事後学習並びにポスター報告でも多く触れられているが、前述で触れた「身だしなみ」や「マナー」、そして実際の業務での様々な動作や仕草について、多くの関心や自信を生んでいるようである。実習の際に毎日作成する「日報」(図8)においても、日々仕事や業務に慣れて行く中で、接客や種々の動作や作業が日々出来るようになる喜びが多く記述されていた。これは一般的な職業体験型のインターンシップでも同様だと考えられるものの、ホテル内のレストランという一段ハードルの高い環境における実体験を通じての成長であり、学生自身にも実感と自信を与えているものと考えられる。

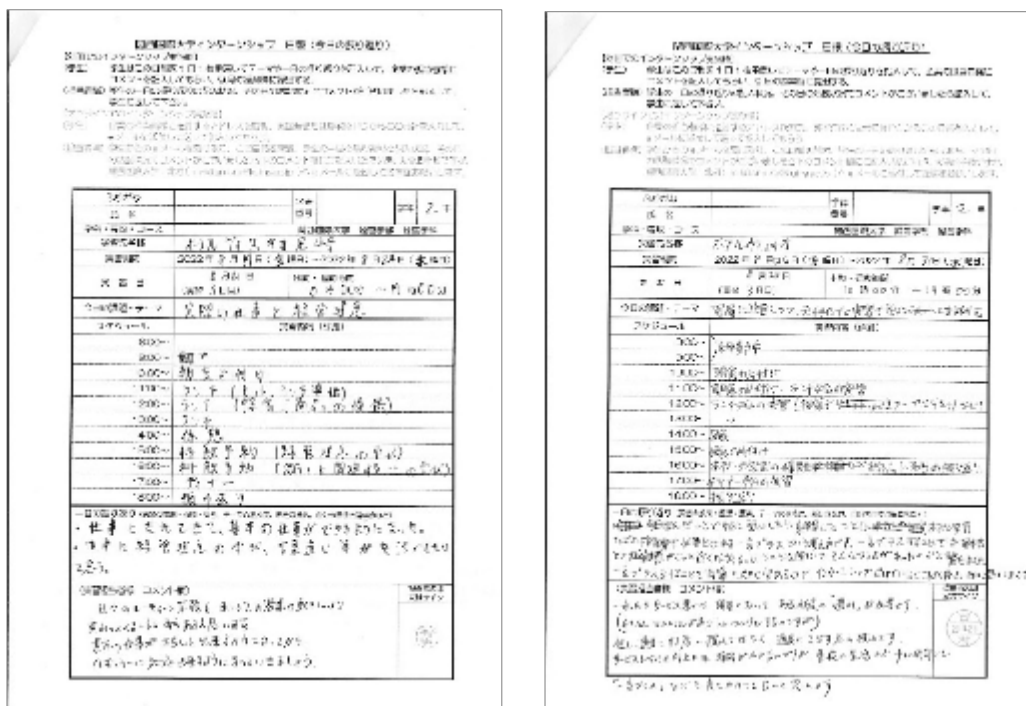


図8 インターンシップの「日報」

健康管理についても、参加した学生には大きな影響を及ぼしたように感じられる。実際に多くの欠勤が発生した第1グループのメンバーはもとより、誰も欠勤しなかった第2グループにおいても、同じ大学からプログラムに参加している者としての「責任感」のような受け止めをしているように思われる。

4. プログラム上の課題

実践上の課題や成果は上記のような点にあると考えられるが、大学の教育プログラムとしての課題も垣間見える。IV-2.2. 項の事前学習で記述したとおり、派遣前の事前学習では、ホテル業界やホ

テル内にあるレストランの経営環境や課題について、経済動向や社会動向も考慮して検討を進めるように指導を行った。また、実際にホテル側から提示頂いた課題も、「新規顧客の獲得や既存顧客のリピート」という非常にオーソドックスながらも経営学的には重要な課題設定であった。これは、経営学部の学生に対する教育としては当然とも言える内容であるが、一方で、実際に学生が学び感じた中核は、ホテルやレストランにおける「身だしなみ」や「マナー」、そして自分自身の健康管理という、社会人としての基本事項に関するレベルに終始してしまっていたことも事実である。実際に、僅か5日間という短期間では作業や実務を身に着けるのが精一杯であり、本来求められるであろう、顧客動向の調査や分析、経営状況の確認、課題解決の提案、といった経営レベルや事業マネジメントレベルの育成や教育とは程遠い所にあると言えよう。これは、このホテルヴィスキオにおけるインターンシップ・プログラムの問題ではなく、2年生を対象として、就職や就業体験とは分離した別の視点を持ちながらも、5日間程度の短期インターンシップで何を学ばせるのか、という根本的な課題であると言える。

とは言え、実際に参加した学生達は、その短い期間に感じた現場感覚と、事前学習で想定していた自らの仮説を何とか結び付けて、プログラム最終日及び再設定されたホテルでの報告会や後日のポスター報告において、何とか与えられた課題への答えを出そうと努力していることも事実である。

VI 今後の課題と可能性

ここまで整理したとおり、今回初めて実施したホテルヴィスキオでのインターンシップ・プログラムでは、事前準備の重要性や健康管理の問題などの実務的な課題が明確となった。また、改めて2年生の段階でのキャリア教育としてのインターンシップ・プログラムの在り方という基本的な課題についても再認識をすることが出来た。

一方、冒頭に紹介した本学とホテルヴィスキオとの協力協定は、必ずしもインターンシップに限られたものではない。実際に、2022年の秋から冬に掛けて本学の社会連携課が中核となり、ホテルヴィスキオと連携し、中学校・高等学校を対象とした修学旅行の「教育旅行企画」の募集を本学内で行い複数のグループによる応募があった。そして2022年12月5日、本学とホテルヴィスキオとの合同による審査会が行われ、筆者も審査委員の一人として参画した。(図9) 本学ホームページで公開された情報では、「関西国際大学×ホテルヴィスキオ尼崎」教育旅行研修プラン企画提案審査会開催というタイトルで、審査会の様子が掲載²されている。該当ページには「ホテルヴィスキオ尼崎にご宿泊される修学旅行生に「大学体験」「交流学习」をテーマにしたプログラムを提案し、尼崎に来ていただける理由と価値を創造することをミッションとして企画提案を行います。」との解説文があり、今後新たな「修学旅行パッケージ」が実現する可能性が示されている。

このような両者による連携活動は始まったばかりであり、本稿のインターンシップ・プログラムもその1つに過ぎず、まだまだ点と点の状態と言える。V-4.項で触れたとおり、現時点における2年生のインターンシップ・プログラムは、就職や採用を前提としていないため、短期間での就労体験や実務実習だけではその成果が限定的なものになってしまう。しかし、ここで示したような、本

学とホテルヴィスキオとの協力協定をより俯瞰的に活用し、今回のような個別プログラム、具体的には大学における個々の科目単位での活動に限定せず、各科目間・プログラム間の連携を持たせることで、今までに無い、長期間で包括的なキャリア教育プログラムを構築することも可能と考えられる。

例えば、1年生秋学期における「プロジェクトマネジメント演習Ⅰ」でホテル業界やレストラン業界の業界研究を行い、2年生春学期の「プロジェクトマネジメント演習Ⅱ」では、実際にホテルヴィスキオを対象とした経営分析やホテルヴィスキオ社長による講演を聴き、2年生夏学期に実際にホテルでインターンシップ・プログラムによる実務学習を行い、2年生秋学期の「プロジェクトマネジメント演習Ⅲ」でより具体的な企画案を提案する。といった1年～1年半の長期的な教育プログラムとして発展させることができる可能性を秘めていると言え、そのキャリア教育プログラムとしての潜在力は非常に高いと言えよう。つまり、現状は個々のプログラムが点と点としてバラバラの状態を、点と点を繋ぎ、線から面へと発展させることが可能と考えられる。



図9 教育旅行研修プラン企画提案審査会の様子（出所：関西国際大学ホームページ）

Ⅶ まとめ

本稿では、本学とホテルヴィスキオとの間で提携された協力協定を基盤として、2022年夏学期に初めて実施したインターンシップ・プログラムについて、事前の準備段階から実際の実習、事後学習や報告会などの一連の実践活動を振り返った。そこで明らかになった実務レベルの課題や、キャリア教育プログラムとしての課題を整理すると共に、その課題の解決に向けて、プログラム単体では乗り越え難い問題を、大学が持つ一連の教育プログラムをより体系的に捉えることで、非常に魅力的な教育プログラムとして再構築できる可能性を示した。

今後は、本稿で示した実務上の課題を実践の場で対処すると共に、他科目や他プログラムとの連携により、より体系的で効率的なキャリア教育プログラムとして発展させて行く必要がある。本稿は、ここまでの振り返りと課題の整理が中心であり、各課題の具体的な対処方法や、総合的なプログラム連携の具体化については、今後取り組むべき課題として残されている。

【謝辞】

最後に、今回のインターンシップ・プログラムの実施に全面的にご協力頂いたホテルヴィスキオの関係者の皆様に深く感謝申し上げますと共に、その基盤を構築した本学の社会連携課及び関係者の皆様に御礼を述べたい。

注・参考文献

- ¹ 関西国際大学 (2022) News Release 『関西国際大学と尼崎ホテル開発株式会社 (ホテルヴィスキオ尼崎) との『連携協力協定締結式』のおしらせ』 (2022/2/1)
- ² ホテルヴィスキオ・ホームページ : <https://www.hotelvischio-amagasaki.jp/> (2023/1/9)
- ³ 関西国際大学ホームページ : <https://www.kuins.ac.jp/index.html> (2023/1/9)
- ⁴ 関西国際大学の教育理念 : <https://www.kuins.ac.jp/about/info/spirit.html> (2023/1/9)
- ⁵ 関西国際大学の教育理念を達成するために : <https://www.kuins.ac.jp/about/info/spirit.html> (2023/1/9)
- ⁶ 関西国際大学の”3つのポリシー” : <https://www.kuins.ac.jp/about/info/3policy.html> (2023/1/9)
- ⁷ 文部科学省・厚生労働省・経済産業省 (2023) 『インターンシップを始めとする学生のキャリア形成支援に係る取組の推進に当たっての基本的考え方』
- ⁸ 関西国際大学 2022 年度夏学期「インターンシップ I」 (授業コード INT203-A72)
- ⁹ ホテルヴィスキオ・ホームページ : <https://www.hotelvischio-amagasaki.jp/restaurant/> (2023/1/9)
- ¹⁰ 諏訪山祭 : 関西国際大学 神戸山手キャンパスで開催される大学文化祭の名称
- ¹¹ 大阪府感染症情報センター「大阪府における新型コロナウイルス感染症陽性者の報告状況 2023 年 第 4 週 [1 月 23 日～1 月 29 日] までの集計」 : <http://www.iph.pref.osaka.jp/infection/disease/corona.html> (2023/2/7)
- ¹² 関西国際大学ホームページ「社会・地域連携」 : https://www.kuins.ac.jp/news/2022/12/post_714.html (2023/1/10)